

兵庫医科大学歯科医師臨床研修プログラム(2025)

1. **臨床研修プログラムの名称:** 兵庫医科大学歯科医師臨床研修プログラム
2. **プログラムの特色:** 兵庫医科大学病院において指導歯科医のもと、歯科医師として身につけるべき基本的価値観及び基本的診療能力を修得し、安全・安心に実践するとともに、チーム医療・多職種連携、さらには、各ライフステージにおいて必要な歯科医療への対応ができる能力を身に付けることができる。
3. **臨床研修の目標**

兵庫医科大学では建学の精神である「社会の福祉への奉仕」「人間への深い愛」「人間への幅の広い科学的理解」を礎にして、その理念に内包される医学諸理論とその応用について学修・研鑽すること、高度な専門知識・技術を有する医療人になるために必要な高度な研究能力と、その基盤となる豊かな学識及び崇高な人間愛の精神を培うこと、ならびに研究活動によって得た成果を広く社会に還元し、医学・医療の進展に寄与することを目標とする。
4. **プログラム責任者**

兵庫医科大学 歯科口腔外科 診療部長 岸本裕充(主任教授)
5. **研修歯科医の指導体制**

施設名 兵庫医科大学病院
所在地 兵庫県西宮市武庫川町 1-1
臨床研修施設長 病院長 池内 浩基
研修管理委員長 副院長 篠原 尚
プログラム責任者 歯科口腔外科診療部長 岸本裕充(主任教授)
副プログラム責任者 野口一馬(臨床教授)
指導歯科医 岸本裕充(主任教授)
野口一馬(臨床教授)
吉川恭平(講師)
川邊睦記(臨床講師)
上田美帆(臨床講師)
徳本佳奈(助教)
富本康平(助教)
上記指導歯科医が研修歯科医とともに臨床を行い、直接指導する。
6. **研修歯科医の募集方法:**

大学のホームページで公募する。採用者の選考は、各大学の成績証明書を参考に、面接と記述試験により行う。
7. **公募期間:** 毎年 6 月から 7 月末まで施設見学を兼ねて公募を行い、選考試験は 8 月に実施する。
8. **研修期間:** 原則として 1 年間の研修とする。その後、希望があればレジデントとして 2 年目以降の研修を行うことができる。
9. **終了判定の項目および基準:** 日々の研修についてはポートフォリオに記述を行う。また、研修歯科医・指導歯科医が入力する DEBUT2 の評価に加え、歯科技工士・歯科衛生士・看護師等から聞き取りを行い、最終的に指導歯科医が臨床への取り組みについて評価する。11. 研修内容の項目に示すミニマムリクワイアメントを達成し、歯科医師として十分な素養を身につけ、安全に高頻度治療を実践

できると指導歯科医が評価した者を修了とする。

10. 研修歯科医の処遇:

勤務形態 常勤

基本手当(時給換算) 1,930 円/時間

賞与 なし

勤務時間 8:30～17:15

時間外勤務 あり

休暇 日曜日、土曜日、祝日(成人の日・敬老の日を除く)、

年末年始(12月29日～1月3日)、年次有給休暇 10日

研修医リフレッシュ休暇 3日

当直 あり 当直手当 あり

通勤手当 本学規程に基づき支給

超過勤務手当 勤務実績に基づき支給

研修歯科医の宿舎 なし

研修歯科医の施設内の部屋 あり

社会保険・労務保険 日本私立学校振興・共済事業団

労働災害保険 加入

雇用保険 加入

健康診断 年1回実施

歯科医師賠償責任保険の扱い 医療機関においては加入 個人加入も必要

学会・研究会等への参加 可 参加費は自己負担

11. 研修内容

歯科医師臨床研修プログラム

単独型臨床研修プログラム

研修歯科医定員:3名

研修期間:研修研修(1年間)

臨床研修スケジュール

3名の研修歯科医は初期研修終了の後、それぞれA, B, Cに分かれ、歯科研修・口腔外科研修・病棟研修を順に行う。

A

4	6	9	12	3	4
初期研修	歯科外来研修	口腔外科外来研修	病棟研修	総括	

B

初期研修	病棟研修	歯科外来研修	口腔外科外来研修	総括	
------	------	--------	----------	----	--

C

初期研修	口腔外科外来研修	病棟研修	歯科外来研修	総括	
------	----------	------	--------	----	--

プログラム内容

A. 歯科医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)

【一般目標】

歯科医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)を習得する

【行動目標】

- ① 社会的使命と公衆衛生への寄与:社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。
- ② 利他的な態度:患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともに QOL に配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。
- ③ 人間性の尊重:患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。
- ④ 自らを高める姿勢:自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

【一般目標】

歯科医師としての資質・能力を習得する

【行動目標】

- ① 医学・医療における倫理性:診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。
 - ①人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
 - ②患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
 - ③倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
 - ④利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
 - ⑤診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。
- ② 歯科医療の質と安全の管理:患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。
 - ①医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
 - ②日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
 - ③医療事故等の予防と事後の対応を行う。
 - ④歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について理解し、実践する。
 - ⑤医療従事者の健康管理(予防接種や針刺し事故への対応を含む)を理解し、自らの健康管理に努める。
- ③ 医学知識と問題対応能力:最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。
 - ①頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
 - ②患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。
 - ③保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。
 - ④高度な専門医療を要する場合には適切に連携する。

- ④ 診療技能と患者ケア:臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・移行に配慮した診療を行う。
- ①患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
 - ②診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。
 - ③患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する。
 - ④診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。
- ⑤ コミュニケーション能力:患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。
- ①適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
 - ②患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
 - ③患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。
- ⑥ チーム医療の実践:医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。
- ①歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る。
 - ②多職種が連携し、チーム医療を提供するにあたり、医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
 - ③医療チームにおいて各構成員と情報を共有し、連携を図る。
- ⑦ 社会における歯科医療の実践:医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。
- ①健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
 - ②地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。
 - ③予防医療・保健・健康増進に努める。
 - ④地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
 - ⑤災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。
- ⑧ 科学的探究:医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。
- ①医療上の疑問点に対応する能力を身に付ける。
 - ②科学的研究方法を理解し、活用する
 - ③臨床研究や治験の意義を理解する。
- ⑨ 生涯にわたって共に学ぶ姿勢:医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。
- ①急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
 - ②同僚、後輩、歯科医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
 - ③国内外の政策や医学および医療の最新動向(薬剤耐性菌等を含む)を把握する。

C. 基本的診療業務

【一般目標】

歯科医師としての基本的診療能力・臨床技能を習得するとともに、患者管理及び患者の状態に応じた歯科医療を提供する。

【行動目標】

1. 基本的診療能力

(1) 基本的診察・検査・診断・診療計画

①～⑥を一連で実施し 20 症例

- ① 患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。

研修内容:初診時医療面接、再診時医療面接を行う。

- ② 全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。

研修内容:口腔内診察や頭頸部診察を行い、診察所見を解釈した上で、各種検査の必要性の判断を行う。

- ③ 診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。

研修内容:エックス線検査、咬合検査、咀嚼能力検査、歯周組織検査などを行い、検査所見を解釈する。

- ④ 病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。

研修内容:医療面接や診察所見を踏まえた診断を行う。

- ⑤ 診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。

研修内容:診断結果に基づいた治療計画の立案を行う。

- ⑥ 必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。

研修内容:患者へ病状を説明し、インフォームドコンセントや同意書を取得する。

(2) 基本的臨床技能等

- ① 歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。

①ブラッシング指導 10 症例

②フッ素塗布 5 症例

- ② 一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。

a 歯の硬組織疾患

①コンポジットレジン修復

②グラスアイオノマー修復 ①②合わせて 15 症例

③インレー修復 2 症例

b 歯髄疾患

①抜髄 1 症例

②感染根管治療 5 症例

c 歯周病

①歯周組織検査 10 症例

②スケーリング

③ルートプレーニング ②③合わせて 15 症例

④咬合調整 3 症例

⑤暫間固定 3 症例

⑥歯周外科処置 インプラント処置見学と合わせて 5 症例

d 口腔外科疾患

①抜歯(難抜歯まで) 50 歯

②埋伏智歯抜歯 10 歯

③粘膜疾患の診断・生検 4 症例

④膿瘍切開 3 症例

⑤顎関節疾患 3 症例

e 歯質と歯の欠損

①支台築造

②前装冠・FMC・CAD/CAM 冠補綴 合わせて 5 症例

③ブリッジ 1 症例

④部分床義歯 2 症例

⑤全部床義歯 2 症例

f 口腔機能の発達不全及び口腔機能の低下

①高齢者の摂食嚥下機能訓練 2 症例

②口腔筋機能療法 2 症例

③ 基本的な応急処置を実践する。

研修内容:疼痛、外傷、修復物脱離、義歯破損への対応 5 症例

④ 歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。

研修内容:担当患者の診療に必要なバイタルサインを測定し、全身状態を評価する。

5 症例

⑤ 診療に関する記録や文書(診療録、処方せん、歯科技工指示書等)を作成する。

①診療録 10 症例

②処方せん 10 症例

③歯科技工士指示書 10 症例

⑥ 医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。

研修内容:院内における講習会(医療安全講習、院内感染対策講習)を受講し、医療事故に対する基本的対策を実践する。 3 症例

(3) 患者管理

① 歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。

研修内容:医科診療中の患者に、歯科治療上の問題点と服用薬剤等の注意点について説明する。

5 症例

② 患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。

研修内容:診療情報提供書を作成し、主治医と医療情報を共有する。 5 症例

③ 全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。

研修内容:心拍および血圧の状況に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモ

ニタリングを行う。 2 症例

- ④ 歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。

① BLS 実習に参加する 1 回

② 歯科治療時の気分不良、血圧低下等併発症が起こった場合の対応についての対処法を実践する 1 症例

- ⑤ 入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する。

研修内容:入院患者に療養上の留意事項を説明し、周術期口腔機能管理を行う。 5 症例

(4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供

- ① 妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。

研修内容:各ライフステージに応じた総合診療計画の立案を行う。 5 症例

- ② 各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。

研修内容:各ライフステージに応じた歯科治療の実践を行う。 5 症例

- ③ 障害を有する患者への対応を実践する。

研修内容:身体的または知的障がいをもつ患者の歯科診療を実践する。 2 症例

D. 歯科医療に関する連携と制度の理解

【一般目標】

歯科医療に関連する連携と制度を理解する。

【行動目標】

(1) 歯科専門職の連携

- ① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。

研修内容:予防処置、口腔管理について歯科衛生士と連携を図る。 5 症例

- ② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。

研修内容:技工指示書を作成し、歯科技工士への依頼をする。 10 症例

- ③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。

研修内容:NST,口腔頭頸部腫瘍カンファレンスへ参加する。 5 症例

(2) 多職種連携、地域医療

- ① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。

研修内容:セミナー受講後、地域包括ケアについてレポートを作成する。 1 つ

- ② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。

研修内容:セミナー受講後、地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割についてレポートを作成する。 1 つ

- ③ がん患者等の周術期等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。

研修内容:がん患者の周術期口腔機能管理において、緩和ケアチームに参加し、医師・看護師・管理栄養士等と連携する。 2 症例

- ④ 歯科専門職が関与する多職種チーム(栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等)について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。

研修内容: 栄養サポートチーム、口腔ケアチームに参加し、医師・看護師・管理栄養士等と連携する。 2症例

- ⑤ 入院患者の入退院時における多職種支援について理解し、参加する。

研修内容: 退院カンファレンスに参加し、医師・看護師・介護職種と連携を図る。
3症例

(3) 地域保健

- ① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。

研修内容: セミナー受講後、地域医療についてレポートを作成する。 1つ

- ② 保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。

研修内容: セミナー受講後、地域歯科保健活動についてレポートを作成する。 1つ

(4) 歯科医療提供に関連する制度の理解

- ① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。

研修内容: 歯科に関連する法律について文献等を用い自習後、指導歯科医の口頭試問を受ける。
1回

- ② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。

研修内容: セミナー受講後、保険診療を実践する。 50症例

- ③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。

研修内容: セミナー受講後、介護保険制度についてレポートを作成する。 1つ

※歯科医師臨床研修の到達目標を達成するため研修歯科医1人当たりに必要な症例数(合計)
335症例